

市議会議員  
かけのまち子  
電話/Fax 53-7727  
kakenom@xj.commufa.jp



市議会議員  
みわ 陽子  
電話/Fax 54-6712  
yokko0520mi@yahoo.co.jp



NO448 2020.1.24  
日本共産党江南市委員会

あすの江南

前市議 森ケイ子 電話/Fax 57-2753  
前市議 東よしき 電話/Fax 54-7977

\* 困り事は早めにお気軽にご相談ください

日本共産党江南市議員団 HP

検索

## 各地で研修中



みわ 陽子

# 防災と議員の役割について研修しました

1月9、10日の2日間、全国市町村国際文化研修所で行われた研修会に参加しました。

風水害など予知可能な災害に際しては「空振りも命を救うが、見逃しは命を奪う」との教えを受け、早めの避難の決断が行政には絶対必要であることを学びました。

また地震など予知できない災害については、家屋の耐震など予防を本気で徹底する方策が必要であると確認しました。

また、熊本地震を体験した車いす利用の議員からの話を聞き、障がい者など弱者の避難についても平時からの実態をふまえた取り組みがなされているのか江南市でも確認する必要があると思いました。

災害時の議員の役割としては、地域の情報を議長に集中して災害本部に伝え、災害本部からの情報を地域に伝える橋渡しであり、勝手に動いて、混乱をまねくことをしてはならないということ学びました。



みよし市図書館学習交流プラザ「サンライブ」を視察（1月16日）

# 自動車のまち・みよし市の充実した公共交通網に驚く コミュニティバスと乗り合いタクシーの乗り継ぎもスムーズ

1月16日、党議員団でみよしの図書館学習交流プラザ「サンライブ」と公共交通、学校給食センターの3テーマで視察研修を行いました。（詳細は議員団HPで）

自動車のまち、みよし市が、こんなにも公共交通の充実に力を注いでいたことに驚きました。みよし市は人口6.1万人で面積が江南市とほぼ同じ。市北部を名鉄豊田線が東西に横断し、名鉄バス4路線が運行しているなど、江南市とよく似た条件です。

民間バス路線を補完する公共交通として、市のコミュニティバス「さんさんバス」（1乗車100円）2路線バス6台が、1日各路線25便ずつ運行。年間利用者は約28万人、1便平均の利用者は約15人に上っています。

バス利便地域をバス停から基本的に300m～500mの範囲内としてバス停を設置し、人口カバー率は96%。バス停から遠い交通不便地域からも「さんさんバス」に乗り継ぎできるよう「乗り合いタクシー」を運行しており、乗り合いタクシーと「さんさんバス」を乗り継いでも、100円で利用できます。

「さんさんバス」も乗り合いタクシーも委託先が同じ事業者のため、バスとタクシーが連携しスムーズに乗り継ぎできるシステムとなっていて感心しました。

さらに約19年前前から、バスロケーションシステム（バス運行情報・位置情報サービス）を導入しており、パソコンやスマホ

# わかくさ園の大切さを教えられる

江南市立児童発達支援事業所「わかくさ園」。江南市は公共施設再配置計画の中で、建物が老朽化したわかくさ園を「民間譲渡・廃止」する方向で検討しています。

かけがえのない障害児の母子通園施設「わかくさ園」をぜひ直営で存続させたいと、保護者OBなどで作る「わかくさを守る会」が、現保護者の意見を丁寧に聞き取って文書にまとめ、1月中旬、その声をもとに担当課と意見交換。党議員団も同席しました。保護者の声では、母子通園の良さを訴えるものが沢山ありました。

市立だからできる経験豊富な保育士による丁寧な指導。我が子が障害児であることが判明し、当初途方にくれた母親が、園の仲間や保育士の継続した励ましの中で、我が子を受け入れ、向き合う覚悟ができる場として、文字どおり、江南市の障害児保育の中心的役割を果たすかけがえのない施設であることを教えられました。

市内では母子通園不要の民間事業所が次々に開設され、わかくさ園と併用する人も増えているようです。しかし多くが園庭もなく狭い民間事業所と比べると、わかくさ園は環境面で格段に優れた施設です。市立だから果たせる役割もあります。利用希望者が増えて、増設を望む声も出されていました。

財政面だけでは測れない、わかくさ園の果たす貴重な役割を、やらかな心と頭で受け止めてほしいものです。「老朽園舎を改修し直営で存続を」の声を急いで広げていく必要があります。

みよし市コミュニティバス

さんさんバス & 乗合タクシー

交通路線 くらまつくん (市の木)

生活路線 さつきちゃん (市の花)

みよし市 平成31年2月1日改正ダイヤ 平成31年2月1日作成

MyCity Miyoshi

から、乗りたいバスの運行情報を手軽に確認し、バス停での無駄な待ち時間をなくせるようになっていました。

徹底した公共交通網の整備・充実を行っても経費は2018年度で1億1159万円。料金収入（2600万円）と国補助金（2141万円）をひいた年間運行負担金は6846万円でした。バス車両購入費を加えると、実質負担はさらに上回る額になります。

すが、思ったより少ない印象を受けました。市域が江南市と同様に狭くコンパクトにまとまっているため、効率よくバスを運行できるのだと思われます。

担当者に今後の方向性をお聞きしたところ、来年10月にさんさんバス路線の再編を予定しており、市民の声を聞いて長大な現ルートを短縮し、バスを6台から9台に増やして不満足な市民をなくすことを目指すのだとか。

江南市との違いに愕然となりました。